

編集後記

『戦史研究年報』第19号をお届けします。

本号は第2次世界大戦終結70周年にちなみ、巻頭の「史料紹介」では、昭和20年の大本営発表綴と終戦前後の連合国との折衝関係事項に関する史料を掲載しています。

「論文」は、戦史研究センター所属研究者による平成26年度調査研究成果の中から2本、投稿論文1本（グループによる基礎研究の一部を修正加筆）を掲載しました。岩谷論文は日本軍が1940年代に中国華北地域で実施した治安戦についてその対象となった中国共産党が華北地域で実施した政治工作ならびに遊撃戦と関連づけて検討するものです。立川論文は、開戦時における日本軍が南方作戦、及びそれに続く南方軍政下において実施した民心安定策について論じたものです。高橋論文はポスト4次防期の航空自衛隊の防衛力整備において、「量から質への転換」を主眼として如何に推進していったのかを明らかにするものです。

「紹介」は、オランダのコーツ財団の手で実施されておりました戦史叢書第3巻『蘭印攻略作戦』の英訳事業の完成を記念した記事です。

「研究会記録」は、シンガポール国立大学教授ブライン・ファレル博士の研究会の記録を掲載しました。太平洋戦争緒戦のマレー・シンガポール作戦について、作戦の必要性、戦況の推移及び太平洋戦争への影響をテーマとして言及しています。

「国際会議参加報告」は、中国・北京で開催されました第41回国際軍事史学会大会の概要及び同大会で岩谷主任研究官が発表した論文(英語)を掲載いたしました。日中戦争の拡大過程を、その要因に着意しつつ分析したものです。

「活動報告」は、平成27年に戦史研究センターが実施した諸活動、史料閲覧室の閲覧状況などを掲載いたしました。

最後になりましたが、本号発刊のためにご協力いただきました関係各位に厚く御礼を申し上げます。

(小椿 整治)

年報に示された見解は執筆者個人のものであり、防衛研究所または防衛省の見解を代表するものではありません。なお、論文の一部を引用する場合には、必ず出典を明示して下さい。また、長文にわたる場合には、事前に当研究所へ御連絡下さい。

編集委員

庄 司	潤一郎 (委員長)		
石 津	朋 之	相 澤	淳
立 川	京 一	柴 田	武 彦
小 山	高 司	野 村	佳 正

編集スタッフ

菅 野	直 樹	山 口	真 司
-----	-----	-----	-----

編集担当者

小 椿 整 治

戦 史 研 究 年 報 第 19 号

発行日	平成 28 年 3 月 31 日
編 集	防衛省防衛研究所戦史研究センター
発 行	防衛省防衛研究所
	〒 153-8648 東京都目黒区中目黒 2-2-1
	電話 03-5721-7005 (代表)

ISSN 1345-5117